

# 海に何を捨てたのか part 2

現代文明を象徴する大量生産・大量廃棄型社会。そこで日々生み出されるおびただしい廃棄物の一部がゴミとなって海岸線に漂着し、今、日本の浜辺は激しく汚染されている。私たちが廃棄したゴミに加え、特に、黒潮（日本海流）沿いの琉球列島や対馬海流が近海を北上する日本海沿岸では、中国・台湾・韓国・ロシアなどの近隣諸国からおびただしい量のゴミが押し寄せ、ここが日本の海岸かと驚愕させられる浜辺も多い。大きな反響を呼んだ本誌 2003 年 5 月号の南西諸島取材に続く、漂着ゴミ現地ルポ第 2 弾！（監修：山口晴幸 防衛大学校教授）写真は越高漁港付近（長崎県対馬市）



写真1 小さなビーチだがゴミでめちゃくちゃに 女連

## ゴミに埋もれる対馬の浜

韓国から 49・5 キロ。よく晴れた日には釜山が見えるという対馬は、リアス式海岸の美しい入江が特徴の、南北にのびた大きな島だ。この島にもすてい量のゴミが流れ着いていると聞いて現地に飛んだ。（文・写真 編集部）

今回調査したのは、対馬北部の西側の海岸線、韓国に最も近い地域だ。海岸線沿いに走ると、深く切れ込んだ谷間に、小さな集落とポケットビーチが点在している。ビーチといっても対馬には白砂の海岸は少なく、波打ち際に大小の岩が転がる黒っぽい浜辺だ。驚くべきことに、ほとんどすべての浜が発泡スチロールやポリタンク・ペットボトルなどの漂着ゴミで汚染されていた。

### ここはゴミ処分場なのか？

もつともひどかったのが、越高漁港わきの浜（右頁写真）だ。もともとの浜の地面が見えないほどゴミが流れ着いている。ゴミ処分場かと思うほどの凄まじい光景だ。発泡スチロールやプラスチック容器が厚い層をなして積み重なっているため、足を踏み入れると足場がフワフワする。ゴミとゴミとの隙間には、風と波で風化した発泡スチロールの白い粒が砂のように入り込み、文字通り「ゴミの白砂浜」をつくりだしていた。

この浜にはポリタンクも数多く流れ着いており、ハンゲルや中国語が刻印されているが、何が入っていたのかはわからない。赤・黄・緑・白というとりどりのポリタンクが、ゴミの浜に毒々しい彩りを添えている。

ここまでゴミが溜まると、手のつけようがない。近くの漁港で釣り糸を垂れていた地元のおじさんに聞いてみると

「前は掃除もしたもんだけど、台風が